

ニセコエクスプレス号の展示場所に関する

アンケート調査報告書

このアンケート調査は、
ニセコエクスプレス号の設置場所に関する土香る会会員の多様な意見を
行政と住民の合意形成プロセスに反映させるために
実施したものである。

【目次】

- 1 : アンケート調査の集約と要望 . . . 2
- 2 : アンケート調査の趣旨と目的 . . . 3
- 3 : アンケート調査の設問と回答 . . . 4

2019年6月
土香る会

【1：アンケート調査の集約と要望】

私たち「土香る会」は、ニセコエクスプレス号の購入を目指したクラウドファンディング事業が地元有島地区住民に対する事前の説明も合意形成の努力もなく進められたことについて、情報共有と住民参加を定めた「ニセコ町まちづくり基本条例」の精神と諸規定（特に、第2条～第13条）に反しているのではないかと危惧しています。

「土香る会」では、役員会の決定により、この懸念の当否を明らかにするため会員に対しアンケート調査を行いました。その結果、次のような意見が寄せられましたので、それら会員の声に基づき、住民との合意形成による問題の解決に向けて、有島記念館の地元有島地区住民と有島謝恩会はもちろんのこと、ニセコ町民全体の理解を得るような事業方針を見出すよう、一層の努力を求めるものです。

1. ニセコエクスプレス号の展示場所を有島記念館裏とする案の当否決定については、有島地区住民および有島謝恩会との合意形成が不可欠である。また同時に、駅周辺での展示案も含め町内のどこに設置するかについては、ニセコ町町民との合意形成が不可欠である。このため、5月16日のまちづくり講座において教育委員会が約束した地域住民との再度の話し合いを必ず実施し、合意形成に至るまで努力することを要望する。

※この点については、アンケートに回答を寄せた9人の会員全員が「合意形成は不可欠」との意見であり、関連して次の意見も寄せられた。

- 野外展示による景観への影響は、地域全体の価値や生活環境に直結している
- 有島記念館の出自は歴史的に有島謝恩会なので、有島謝恩会の意向確認は必須
- まちづくり基本条例に即した事業推進に配慮しなかったのは何故か、疑問がある

2. ニセコエクスプレス号の展示場所については、有島地区住民や有島謝恩会、ニセコ町民との話し合いの中で決すべきであるが、土香る会としては、多様な意見があるものの、有島記念館裏の案については反対の意見が多いことにご配慮いただきたい。

※有島記念館裏に野外展示する案については、アンケート回答者9人のうち5人が反対、ニセコ駅周辺に展示すべきとの意見であり、賛成は1人であった。
関連して、次の意見も寄せられた。

- 展示物は、有島農場の原風景が広がっている有島地域の景観にはふさわしくない
- 有島記念館の現状のスタッフ体制では、野外展示物の管理運営は困難と思われる
- 有島記念館が展示する歴史内容にとっても、本件は主要な史料とは思わない
- 博物館としての事業拡張にとっても、本件が高い優先度にあるとは思わない

※上記に関する詳細は、次ページ以降をご参照ください。

2019年6月

有島記念館と歩む「土香る会」
会長 井上 剛

【2：アンケート調査の趣旨と目的】

**有島記念館の裏にニセコエクスプレスの車両を展示する、
という事業案について、会員のみなさんのご意見をお聞かせください。**
土香る会（事務局）

ニセコエクスプレス号の展示場所が問題に

ニセコエクスプレス号の車両をニセコ町の歴史的遺産として購入するためその費用をクラウドファンディングにより公募していた事業は、5月27日の期限までに目標額を達成しました。

今後は、購入した車両をどのように展示し保存していくのかについて検討が深められるものと思われませんが、ここに大きな問題が横たわっています。
クラウドファンディングの事業説明の中では、購入した車両は有島記念館の裏に野外展示する予定、と記載されていました。（次ページ掲載 URL 参照）

有島記念館周辺の地元住民の反応

しかし、地域の景観に大きな影響が生ずるこの野外展示案が、地元である有島謝恩会や有島地区住民に対して事前の説明や合意形成が全くなされないまま公表されファンディングが進められていたことに対し、地元住民から厳しい批判の声が上がりました。

「ニセコ町まちづくり基本条例」の情報公開規定に反すると思われる事業の進め方を指摘されたニセコ町教育委員会は、その後、地元住民と有島記念館との話し合いの場を設け、さらに5月16日にはまちづくり町民講座を開催し、町民に説明し意見交換を行う場が持たれました。

まちづくり町民講座における議論から

このまちづくり町民講座の場で、参加した町民から、設置場所は有島記念館裏ではなくニセコ駅周辺にすべきだ、との声が多く上がりました。
また、参加した有島地区の住民からは、クラウドファンディングによる支援金の目標額が達成された段階で、車両の展示場所について有島謝恩会や地域住民との間で合意を得るための継続的な話し合いを行うよう、強い要望が出されました。

これらの意見を受けて、有島記念館を所管するニセコ町教育委員会町民学習課の佐藤課長は、合意形成に向けて改めて有島謝恩会や地元住民などとの協議を行うことを約束しました。

土香る会としても重大な関心を持ちたい

そこで、有島記念館の協力団体であり、有島謝恩会とも活動面で協力関係にある土香る会の会員の皆さんに、この問題についてご意見をお聞きしたいと思います。
皆さんのご意見をもとに、土香る会としてこの問題にどのように対応すべきか、皆さんと一緒に検討を深め、必要に応じて見解を公表し、関係機関による適切な対応を要望したいと思います。

→裏面にアンケートがあります。回答を記入して事務局まで返信してください。

【3：アンケート調査の設問と回答】

回答者9人（会員全65人中）

次の質問にお答えください。選択肢は一つだけ選んでください。

なお、回答にあたっては、本事業に関する下記のWEBサイトも参考になさってください。

https://readyfor.jp/projects/nisekoexpress?fbclid=IwAR37n8X_bR7pvA_Uvk0kxHfTiNtJuZj6NCcwCDAVNGDmqqZRYpf5jiCwbrY

質問1①：有島記念館の裏に展示する案の是非については有島謝恩会や地元住民との合意形成が不可欠だ、という地元の意見について、どのように思いますか？

- 1) 有島謝恩会や地元住民との合意形成は不可欠だと思う・・・9人
- 2) 有島謝恩会や地元住民の意見は参考程度に聞く、ということでもいい・・・0人
- 3) 他（※どう思いますか？→ _____）・・・0人

質問1②：前の質問1①で選んだ番号の理由をお書きください。

【Aさん】

1) 合意形成が不可欠

- 理由…記念館が町と会を立ち上げるなどして進めてきたことと思うが、公聴会などを開き何故記念館の裏なのかを説明し、今後の管理含めて話し合う必要がある。町の郷土資料館の役割を持つのであれば。

【Bさん】

1) 合意形成が不可欠

- 理由…別の観点から述べておられるので、まとめて後述します。
(事務局)

【Cさん】

1) 合意形成が不可欠

- 理由…いかなる問題においても、必ずしも地域の合意が不可欠とは思わないが、この問題については、必要と思う。

【Dさん】

1) 合意形成が不可欠

- 理由…全員の合意は不可能にせよ、最大多数で事を決する人（民？）主主義の基本があるので、多数決で決められるべきかと思います。

【Eさん】

1) 合意形成が不可欠

- 理由…先日の伊藤さんの説明では、有島記念館の役割には博物館の役割があり、博物館にニセコ町にゆかりのモノを収蔵するのは当然との理由を述べていました。別の情報（道新記事？）では、1両を保存するには駅付近には物理的に無理があるとの理由だったと思います。

私は博物館機能があることは認めますが、有島記念館に収蔵すべきモノではなく、鉄道関連の「観光施設」だと思います。修景的にも裏側とは言え、ふさわしい場所ではありません。記念館での収蔵が既定の事実のようにしてクラウドファンディングを始めたことは納得できません。有島の農場解放が行われた地として記念館が立地していることからそのこととは直接関係のないモノを設置するにあたっては、事前の説明や有島農場ゆかりの謝恩会の意見や町民全体の意見を聞くのは、ごく自然なことです。

【Fさん】

1) 合意形成が不可欠

【Gさん】

1) 合意形成が不可欠

- 理由…地元住民以上に、援助してくださる方に対する信用が著しく低下する。後手では、寄付先の選定に影響するし、又議論を慎重に行わないと、有島記念館自体にも良くない印象を残す。

【Hさん】

1) 合意形成が不可欠

- 理由…関連資料等を十分に拝見したわけではありませんが、有島記念館の収蔵品として鉄道車両を受け入れるにあたっての「社会的な信認(public trust)」、「法令上の適合性」、および管理・保存と展示・鑑賞を両立させる「現実性・実現可能性」（物理的、経済的、人的な観点を含めて）などの点において、有島記念館内での議論が尽くされたのかどうか、またその議論の結果が住民の求めに応じて公開されたのか、疑問です。

有島記念館が公的な根拠をもつミュージアムである以上、新たな収蔵品の受け入れ、管理については相応の根拠と public trust が必要との点に関しては、伊藤学芸員がご配慮のことと存じてはおります。

【Iさん】

1) 有島謝恩会や地元住民との合意形成は不可欠です。

- どういう経緯で話が進んでこの様な有り様になったのか？
とてもお粗末ですね(—_—;)クレームが付くのは当然です。
ニセコ町教育委員会のやり方はお話にならない。
ホーレンソー(報告連絡相談)が足りなくコンセンサス(相互承認)も無視
ニセコ大丈夫でしょうか？それこそ相互扶助は何処に行ったのでしょうか？
ニセコ町教育委員会のとった今回の件は理解に苦しみます。

質問2①：ニセコエクスプレスの車両をどこに展示したら良いと思いますか？

- 1) JR ニセコ駅の周辺・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5人
- 2) 有島記念館の裏・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1人
- 3) 他（※どこが良いと思いますか？→ ・・・・・・・・・・・・・・・・ 3人

質問2②：前の質問2①で選んだ番号の理由をお書きください。

【Aさん】

3) 他（※どこが良いと思いますか？→ わかりません。

●理由…SL ニセコ号もあるので、井門がどう考えるかは別として JR ニセコ駅の周辺と
思ったが、保存、管理が JR ニセコ駅の土地の問題など難しいかもしれない。

町民が協議して決めるのが良い。

他の地区で旅をして記憶にあるものを列挙します。

丸瀬布の観光公園に郷土資料館が同じ敷地にあり、SL を走らせている。

上湧別は鉄道記念館に展示。

壮瞥は郷土資料館の前に展示。

小樽は鉄道博物館がある。

計呂地は交通公園に展示。

愛国は交通記念館に展示。

<追伸>

アンケートを読んで、町民の多くが、有島記念館への展示に反対する理由は、記念館が郷土資料館の役割を担い、また将来博物館となる準備をしているということを知らず、有島武郎と直接関連がないと感じたか、走らなくなった列車がSLと共に現在の駅周辺に展示され、地域の子供たちや訪れる観光客が直接手を触れ感じ取れる場所と考えるのは自然と思いました。資料の、クラウドファンディングサイトで「ニセコエクスプレスの、里帰り……」の写真は、鉄道マニアでなくとも列車に馳せる思いを掻き立てるものでしたが、ところどころ違和感のあるメッセージが気になりだし、特に町長の言うところの相互扶助は、有島の「相互扶助」と別物でもありました。

ニセコ町、有島記念館の活動や今までの経緯を十分に把握していないこともあります
が、アンケートに回答するうちに、様々な疑問がわいてきました。

まず、各種リソースが限られたニセコには、急いで収集しなければならない無形の文化遺産となるものがたくさんある中、維持管理が難しい列車が提案選択された理由は何だったのだろうかという単純な疑問がわきました。町民がニセコエクスプレス号のもたらした経済的利益と精神的象徴として望んでいるのだろうか、それとも誰か個人でコレクションできないニセコエクスプレス号を町の財産として所有したいということは無理と切り切れるだろうか。そして、ニセコ町にはその都度、文化遺産を残すために文化協会が設立されるとしたら、ニセコ町鉄道文化協会とは誰がどの時点で発足したのだろうかといった疑問です。

ですが、現在、町民の合意のもとニセコエクスプレス号の購入が決まってしまう
ましたが、前提を知りたいのです。

それでは、購入資金も確保され、いよいよ望んだことが実現しようとしています。そ

の後の維持管理はどこが行い、あるいはスポンサーの予定が決まっているのだろうか
と疑問に思いました。

有島記念館は博物館の規模ではなく、人員・専門知識的に維持管理をするのは難しい
のではないのでしょうか。現職員が後世のために欲しかった大切なものを手に入れた歓
びから、自分がどうにかできるという思いで乗り切ろうとしているならば、責任の考
え方含めその管理方法はニセコエクスプレス号を大切に後世に残すことに繋がらない
と思います。現実的に、雪払いは記念館に警備施設職員が行うのか（現在は配置が無
いように見え、職員への教育訓練も必要となる）、それとも伊藤学芸員が自ら行うの
か、現在の女性職員（不適切な言葉ですが）が担うことになるとしたら日常業務への
しわ寄せや来館者への対応が不十分なものになると思います。

最近、私が住民票を置く札幌市の円山動物園にゾウが4頭もやって来ました。職員の方
々の努力も大変なものだと思います。閉じ込める飼育ではなく、自然に近い環境で
飼育しゾウの生態を観察できるようになったと思います。長い間、札幌市にはゾウは必
要かという議論がなされ、市民生活が目前にある福祉や生活に不安を抱き、文化的
に成熟度が高まっていない中で優先すべきものではない等の反対意見も多かったと記
憶しています。園長の学術的で専門的な「動物園」の意味するものの説得が新しい市
長の心を動かしたのかもしれませんが。私は、文化的施設の未来の発展とか経済的効果
ということは抜きにして、先代のまろやかな性格のゾウが可哀想な死に方をしたとい
う理由で反対でした。新しく来たゾウ達に会いに行くのも、まだ尻込みしています。

【Bさん】

1) JR ニセコ駅の周辺

- 理由…別の観点から述べておられるので、まとめて後述します。
(事務局)

【Cさん】

1) JR ニセコ駅の周辺

- 理由…鉄道車両である点から、やはり駅周辺が妥当であると思う。
また有島記念館周辺では、景観にそぐわない。
歴史的なものとは言え、歴史の内容があまりに違う。

【Dさん】

2) 有島記念館の裏

- 理由…駅付近や公園等に設置される場合が多いが、有島記念館と有島ポンド・散策路と
車両の三要素が一体となり、相乗効果で入館者数が増えることをきたいし2)とした。

【Eさん】

1) JR ニセコ駅の周辺

- 理由…ごく常識的に、鉄道関連のモノ（エクスプレスの車両）はJR駅周辺、すでに蒸
気機関車や転車台、給水塔などがある付近に設置するのが最もふさわしいと思います。
私自身は、JR北が自ら在来線の存続の危機に追い込もうとしている現在、かつてのJR
の頑張り、観光の発展に寄与しようとしていた意気込みを感じさせる特急車両が鉄路の
一部に残されることに大いに価値を認めます。物理的困難は何とか知恵を出して乗り切
れるのではないかと考えています。

【Fさん】

1) JRニセコ駅の周辺

- 理由…有島記念館は、ニセコ町博物館としてのミッションもこれまで以上に積極的に担うべきです。（口述）

【Gさん】

3) 他（※どこが良いと思いますか？→ わかりません。

【Hさん】

1) JRニセコ駅の周辺

- 理由…JR山線と地域社会の歴史を継承する展示として意味があるかもしれないので。個人的には当該車両の展示の意義を理解できていませんが、購入そのものは私的な団体によるものなので判断しません。

【Iさん】

3) 他（※どこが良いと思いますか？→ わかりません。

- 理由…[わからない]というのは展示場所というより有効利用が先決だと思うからです。
ただ展示するだけで本当に良いのでしょうか？
運行廃止となった遺産をどうにかたちで残すのか。
まず、その事を皆で議論する。
とにかく議論が足りないと思います。
徹底的に時間の許す限り話し合いをして結論を出すべきです。

議題からそれますが

そもそも JR 北海道が運行を止めた。ここが問題の根幹です。
自助努力もしない体制こそ糾弾されるべき事実であることを
どれだけの人が認識しているのでしょうか？
鉄屑にして売ったらいくらになったのでしょうか？
1000 万の善意を絶対に無駄にしてはいけません。

参考

【Bさんからのご意見】

ニセコエクスプレス問題について

アンケートに対する私の答は、地元の意見を尊重する、ニセコ駅に置く、ということになります。また、土香る会としても関係者と言えますので、この問題についての態度を表明することは大事なことだと考えます。

その上で、この件に関してはいくつか分からないことがありますので、少し長くなりますが、私なりにまとめたものを提出します。

1. ニセコ町鉄道文化協会とは何者か？

F Bに載っている説明では「ニセコ町内にある鉄道遺産（蒸気機関車「9643」、旧新得機関区転車台、殖民軌道真狩線跡など）の振興活動（ママ）をしています」や「昨年立ち上がった」とありますが、それ以外のこの団体に関する情報は林副町長が会長に、伊藤学芸員が事務局長になっているということのみです。

F B（フェイスブック）で見る限りはクラウドファンディングの呼びかけ団体ですが、5/16に開かれた町民に対する説明会でも団体としての挨拶や説明はありませんでした。ちょっと納得できていません。

クラウドファンディングを行う前に、町民センターなどで説明会を開いて町民皆のものにするべきではなかったかと思います。何故表に出て来ないのかが気になっています。

2. クラウドファンディング目標設定のちぐはぐ

第一目標	860万円	先頭7m+車庫建設	【旧新得機関区転車台】
第二目標	(860)+90万円	1両全ての保存	【有島記念館】

F Bの第一目標のところには

「道内有数の豪雪地帯であるため、本来は鉄道車両の屋外保存には向かない土地で（中略）破損を防ぐための車庫が必要」

とあるのに対して、第二目標では

「転車台で保存するには車庫の建設費用が不足するため『有島記念館』内での保存となります。

※記念館内には車庫・屋根はないのですが、職員が常駐しているため、随時除雪などの最低限の作業ができます」

と書いてあり、車庫の建設費用が不足するので車庫・屋根のない記念館内に置く、と読めます。そうであれば初めから第二目標に、目標金額が高くなることを承知で、車庫建設を含めればよかったのではないのでしょうか。

又は、1両丸々購入できたのだから、今から改めて車庫建設費用をクラウドファンディングしてみたらどうでしょう。

3. 説明のちぐはぐ

第一目標で「旧新得機関区転車台」に置くとする説明によると、当該場所は

「ニセコエクスプレスも、蒸気機関車「9643」、に並べて保存することで、鉄道遺産のさらなる集積地となります」

となっていますが、第二目標の説明にある有島記念館に置く案を採用すると、上の説明による理想的な形とは矛盾することになります。集積地になってこそその保存活動であり、鉄道博物館の意味が出てくるはずで。

※ついでに言うと、有島記念館は有島武郎記念館であるはずで、現有の職員数では博物館機能を果たすことはできませんし、現にできていません。別途、ニセコ町博物館なりを考える必要があると思います。

4. 地元への説明はなし？

クラウドファンディングの件が新聞に載ってから、有島記念館内に置くことに関して地元から反発が出ました。理由は2つあります。

①地元に対して事前の説明がなく、また賛否を問われることもなかった

②有島記念館に列車を置くことの違和感。自然の景観を大事にしている地区にはそぐわないものである

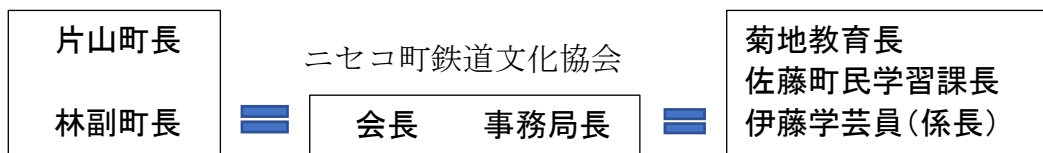
通常何かの事業を行なおうとする場合、住民合意は不可避であるのに、それがそのまま全国にクラウドファンディングを呼びかけてしまったのです。そして、反対意見が地元から出ている状況になっています。

5. 運動主体の曖昧さ

1) 今回の物語に登場するのは3団体だと考えられます。即ち、有島記念館（を含めたニセコ町教育委員会）、ニセコ町鉄道文化協会、ニセコ町役場です。この3団体はそれぞれが独立しているようでいて繋がっているのが不思議なところです。実は、ニセコ町鉄道文化協会の会長が林副町長で、事務局長が伊藤学芸員なのです。

ニセコ町役場

ニセコ町教育委員会



2人がFBで協力を呼びかけている

クラウドファンディングの呼びかけ主体

5/16の町民説明会に3人が出席した

2) 上図から分かるように、FBを見た人はクラウドファンディングを呼びかけているのがニセコ町鉄道文化協会であると分かったとしても、副町長が会長を兼ねており、役場のトップ2（町長と副町長）が揃って募金協力をお願いしていることや、保存場所が公共施設である有島記念館であることから、町が関わった事業だと思うでしょう。ニセコ町鉄道文化協会という、ニセコ町民でもほとんど知らない私的な団体だけが表に出てくるのとはインパクトが違います。その意味で、この件は事前準備が十分だったかという大きな検討課題を含んでいると思います。

※ちなみに、FBに載っている2人のお願い文を引用します。

片山健也（ニセコ町長）：

小説家・有島武郎はこのニセコの地に「相互扶助」の思想を遺しています。この思想はニセコ町の街づくりの基本理念として現在もこの地に息づいています。ぜひ今こそ、みなさまの「相互扶助」の精神で、ニセコエクスプレスをニセコへと里帰りさせてください。（抜粋）

林知己（ニセコ町鉄道文化協会会長・ニセコ町副町長）：

ニセコ町には「9643」、「旧新得機関区転車台」、「旧殖民軌道真狩線」などの鉄道遺産があります。そこにニセコ町の観光振興に大きな貢献したニセコエクスプレスの保存にぜひお力を貸してください。（ママ、抜粋）

3) F Bの説明から引用します。

「せめて1両だけでも保存していきたい。

そこで昨年立ち上がったのがニセコ町鉄道文化協会です。町をあげて協議を続けた結果、2通りの保存場所候補が挙がりました。（中略）

※購入後の管理については、ニセコ町唯一の博物館施設である「有島記念館」

（所管：ニセコ町教育委員会）が担います。」

以上に引用の中に「町をあげて協議」とありますが、そのことが実際にあったのかどうかは耳にしたことがないので分かりません。今度説明会があったら、いつ、どこで、何人が（または誰が）参加して、どんな話し合いがなされたか聞いてみたいと思っています。

4) 上と同じ引用箇所最後にある「管理については、ニセコ町唯一の博物館施設である『有島記念館』（所管：ニセコ町教育委員会）が担います」の部分です。管理を担うのは構わないのですが、そのことと車両を有島記念館に置くことは別の問題ですし、第二目標達成の場合には「職員が常駐しているため、随時除雪などの最低限の作業ができます」とありますが、それがニセコエクスプレスを記念館に持ってくる理由になるでしょうか。

5) 町の姿勢は？

①町長と副町長という2トップが全国にクラウドファンディングへの協力をお願いしておきながら、町からの財政支援はゼロなのでしょうか？

②この計画（クラウドファンディング）が持ち上がった時点で、地元合意の確認が役場ではなされなかったことになりませんが、ニセコ町教育委員会も含めて役場がお墨付きを与えた事業で、何故こういう事態になったのかを検証してほしいし、しなければなりません。

6. 町民講座の曖昧さ

5/16の町民説明会ですが、広報ニセコ5月号には「第178回まちづくり町民講座（有島記念館）」として案内があり、「現在有島記念館で取り組んでいるニセコエクスプレス収蔵計画や各種事業のお知らせなどを行います」（下線は引用者）と書かれていました。ニセコ町鉄道文化協会がやっているのはクラウドファンディングだけで収蔵計画は違うのかなと思いましたが、それは横に置きます。

その後の新聞折り込みチラシを見ると、町民講座のタイトルが「有島家とニセコ町、そして有島記念館の活動について」となっています。プログラムの内容を見ても「有島家と本町の関わり（起源・歴史）」と「各種有島記念館事業（展示・収集保存・教育普及）について」とあり、その下の説明文の中にも「ニセコエクスプレス収蔵計画について」（広報ニセコ5月号）などの言葉は見当たりませんでした。ニセコエクスプレスなら関心はあるが、記念館全般の事業説明や有島家の話には興味がないという人は来なかったはずで。

実際のところ、当日は説明の多くが有島家の話でありましたし、記念館の4つの機能の話も含めると短すぎる1時間半という時間設定の大半を上述の説明に使ったものとな

りました。ニセコエクスプレス問題に関しては最後に参加者から、どうなっているのか、どうするつもりかと質問されて初めて話し合いになる状況でした。折り込みチラシの件と併せて考えると、この町民説明会ではできる限りこの話題に触れないようにしたい意図が透けて見えました。

7. 今後の方向は？

1) 保存場所についての合意が必要

当事者の一方である運動主体がいくら頑張っても、忘れられた他方の当事者である地元住民との話し合いと合意がなければ、計画は絵に描いた餅になります。強引に進めれば将来に禍根を残します。

5/16の町民説明会において最後に出た質問に答える形で町民学習課長が、購入が決まったら保存場所について地元住民を含めた話し合いの場を提供すると確約したことから、その約束履行を強く求めると同時に、合意に達するまで何度でも話し合いを続けることをお願いしたいと思います。というのも、有島記念館横にある旧緬羊牧場の再活用問題が、有島の景観を大事にしたものにしてほしいと地元から要望が出たきり、1年以上も店ざらしのまま何の合意も、進展もないからです。これの二の舞にならないよう、合意の努力をしてほしいと思います。

町民説明会でラジオニセコの宮川さんから「船は海に置け、という言葉があるんです」という発言がありましたが、私は全面的に支持したいと思います。

2) 期限の問題

NHKラジオでは朝の北海道ニュースで目標額達成の翌日に、今年中に皆さんに見てもらえるように展示準備を進めますという伊藤学芸員のコメントを紹介していました。これも地元合意を無視したコメントだと思います。ただ、6/4道新朝刊では関係者の話として「具体的な場所と公開時期は未定」と報じていましたので、状況が少し分かってきたのかも知れません。期限を切らずに無制限一本勝負でやってほしいと思います。

3) まちづくり基本条例との兼ね合いは？

利害関係のある当事者（地元住民）を無視した今回の進め方は、町政の在り方に一石を投ずるものです。例えば、「まちづくり基本条例」には次の条項があります。

（説明責任）第4条

町は、町の仕事の企画立案、実施及び評価のそれぞれの過程において、その経過、内容、効果及び手続を町民に明らかにし（後略）

本来であれば、少なくとも利害関係の生ずる地元住民には前もって話をしておくことは欠かせないことです。町の憲法とまで言われる「まちづくり基本条例」の精神に反することをしたことは先ず認めなくてはならないと思いますし、事業の所管がどの部署であっても最終責任は町が取るものと考えます。

(以上)